

第2期香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括に関する協議において いただいた前委員長からの感想等について

- 5年間の取り組みでPDCAサイクルを回し、苦勞をされている様子が資料から想像できる。
人口ビジョンの目標値(30,800人)をKGI(最終目標)とすると、それを実現するためのKPIが、
仮にすべてA評価であっても、人口は減少したという結果では本来意味がない。
- 各評価をしたうえで、香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略に取り掛かり10年が経過し、様々な取り組みを進めてきたところで、R6年度に、一度足元を確認するために実施した将来人口推計を確認できていることは非常に重要である。
そして、その結果から、楽観視できない現状が浮き彫りになっており、人口ビジョンの達成は非常に困難な状況であることを確認されている事自体に意味がある。
- 第3期では、この部分をふまえ、これまで取り組んできた「人口を食い止める視点」に加え、「受け入れていく視点」にも取り組まれていくことは理解した。
- 国がR7.6.13に閣議決定された「地方創生2.0」の考え方の中に、「関係人口」に関する内容があり、これまで人口が1人減る・増やすという考え方があったが、これからは人口が減ることを受けいれながら、『**知の総和**』という考え方で、地域の維持・向上を目指す考え方を取り入れるべきではないか。

これまで・・・人口 30人の地域 = 30人で維持

これから・・・人口 23人 × 1人当たりのレベルを現状の1.3倍にする 30人 で維持

ここまでのことは、地方創生2.0の中に明記はないが、
『3万人に維持することは難しい』とすれば、その質的な部分を
どんなふうにこの中に埋め込んでいくか、織り込んでいくか、
重ね合わせていくかという部分は、御当地で調べて、議論して
いくべき大きな課題かもしれない。

